

まけるな

校 長 武井 正明

見事合格した皆さん、本当におめでとうございます。これまでの努力が報われた瞬間ですね。これからいろんなことがあるかもしれないけれど、人生すべてプラスです。夢と希望をもって高校生活を謳歌してほしい。今夜はお祝いだね。

今から 43 年前の 3 月中旬…。

発表は午後 2 時。私はタケダ君とバスで向かった。

着くと既に正門前は、喧騒に包まれていた。

ずっと歩いて掲示板に向かうとすぐに自分の番号がないのがわかった。

直前までであると信じていた 294 番が…なかった。涙は出なかった。

そこからは、ぼんやりした記憶しかない。

白山駅まで歩いた。駅前で座っていると、知らないおじさんがニコニコしながら話しかけてきた。大人は気楽でいいよな。

越後線に乗ると、関屋駅を過ぎて車窓から、なぜか布団屋の看板の文字が目に入ったのを憶えている。

合格した人達は、車中で賑やかに春休みの話題だ。落ちた人達は、普段それほど仲良くなかったのに、急に距離が近くなる。虚ろな眼で、会話にならない会話で寺尾駅に着いた。この先、自分はどうなっていくのだろう、次第に不安が押し寄せる…。

結果報告に駅から学校に向かう際、野球部がいるグラウンドを通った。二つ下の弟もいた。後輩の一人が「先輩、合格ですか？」と訊いてきた。私は「落ちた一つ」と無理に明るく返した。自分の本当を知っている弟は、それを見て切なかったと思う。今考えても、本当に済まないことをしたと思う。その時の話は大人になっても、お互いしたことがない。本当に優しい弟だ。

精一杯虚勢を張って、家に帰ろうとしたとき、他クラス担任で体育の石津先生の「武井！まけるなよ！」が背中越しに聞こえてきた。体育など受験に関係ないと、さぼって見学ばかりしていた不真面目だった自分に、先生は温かい言葉を掛けてくださった。

今、暗闇にいるあなた。

絶対にこの悔しさを忘れちゃだめだ。

ここから這い上がってみろ。ここからが本当の勝負だ。君なら絶対できる。

必死に頑張れ。そして、次の一步を踏み出せた時、校長室に報告に来てほしい。

私は君と同じ経験をして、それを乗り越えた人生の先輩だ。

いつでも待っているよ。